

# 注意障害に対し二重課題に着目した 介入を行い家庭内役割を再獲得した症例

聖稜リハビリテーション病院リハビリテーション部

内藤祐馬・大木圭介・吉田昂生・栗本由美

key word 家庭内役割 二重課題 注意機能

# はじめに

今回、脳挫傷により注意機能の低下を呈した患者を担当する機会を得た。

注意障害に対し、二つの課題を同時にを行い、注意の転換、分配を促す二重課題動作に重点を置き介入を進めた。

その結果、目標とした家事動作再開に至ったためここに紹介する。

# 症例紹介

## 【一般情報】

年齢:70歳代前半 性別:女性

## 【医学的情報】

診断名:脳挫傷(前頭葉)

既往歴:両膝OA(右HTO,左TKA施行)

軽度認知症

## 【社会的情報】

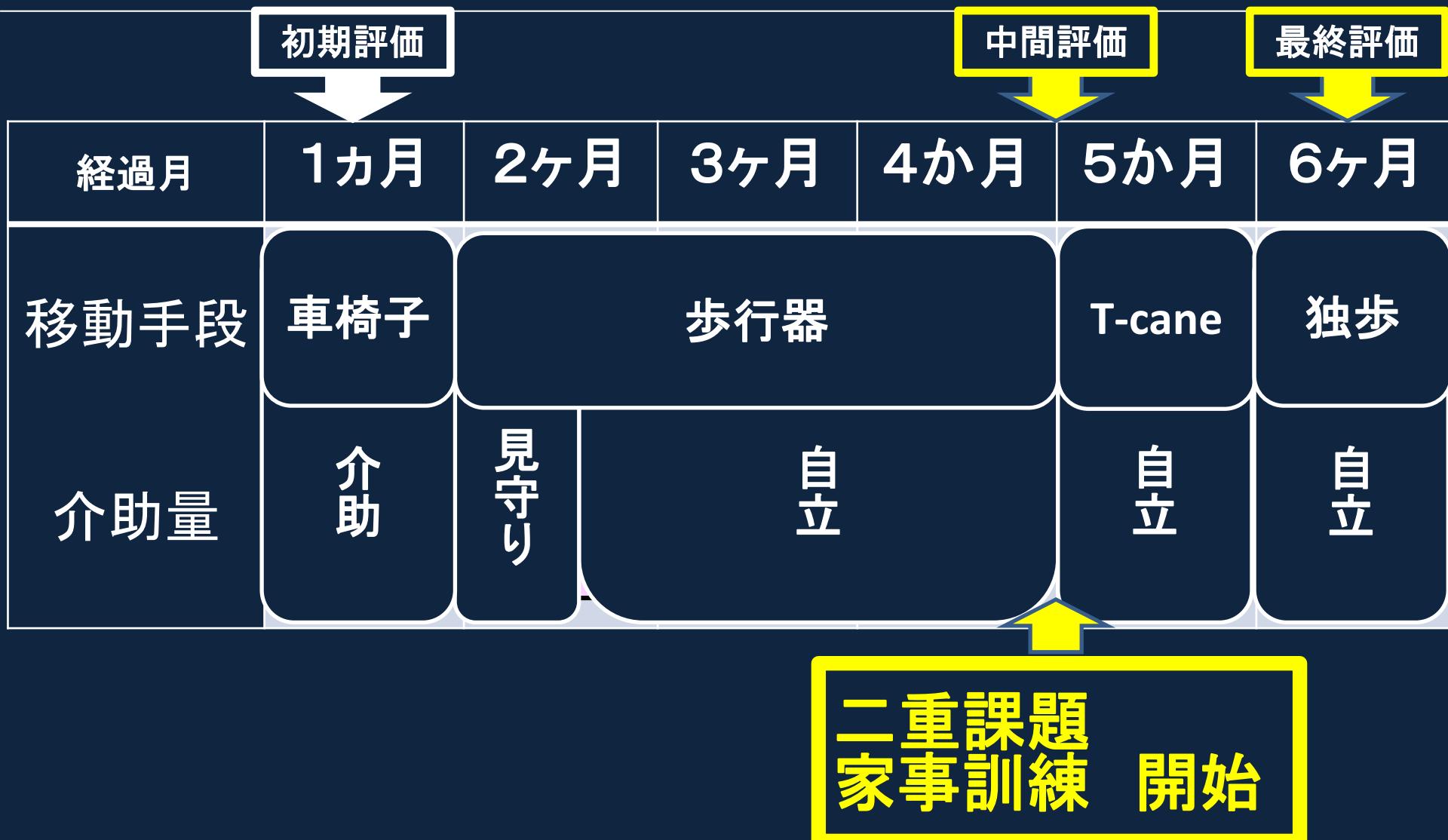
病前生活:屋内独歩,屋外T-cane自立

既往により外出機会が減少

家族:夫・長男夫婦と5人暮らし

家庭内役割:家事全般

# 経過・介入



中間～最終評価までを記載し考察する

# 中間評価

バランス能力

BBS:48/56点

FRT:29.5cm

高次脳機能

MMSE: 23点

TMT-A: 63秒

TMT-B: 274秒

家事動作

掃除

洗濯物

食器運び

不可

移動場面での転倒リスクあり  
歩行の安定性が低下  
障害物への気づきが低下

# 中間評価

## 歩行評価

### TUG

時間: 12.6秒  
歩数: 22歩

### 10m歩行

時間: 12.4秒  
歩数: 23歩

暗算課題あり

### D-TUG

時間: 16.7秒 (+4.1秒)  
歩数: 26歩 (+4歩)

### D-10m歩行

時間: 15.2秒 (+2.8秒)  
歩数: 27歩 (+4歩)

# 目標設定

病前生活

屋内の活動が主であった

家庭内役割は家事に限定

HOPE

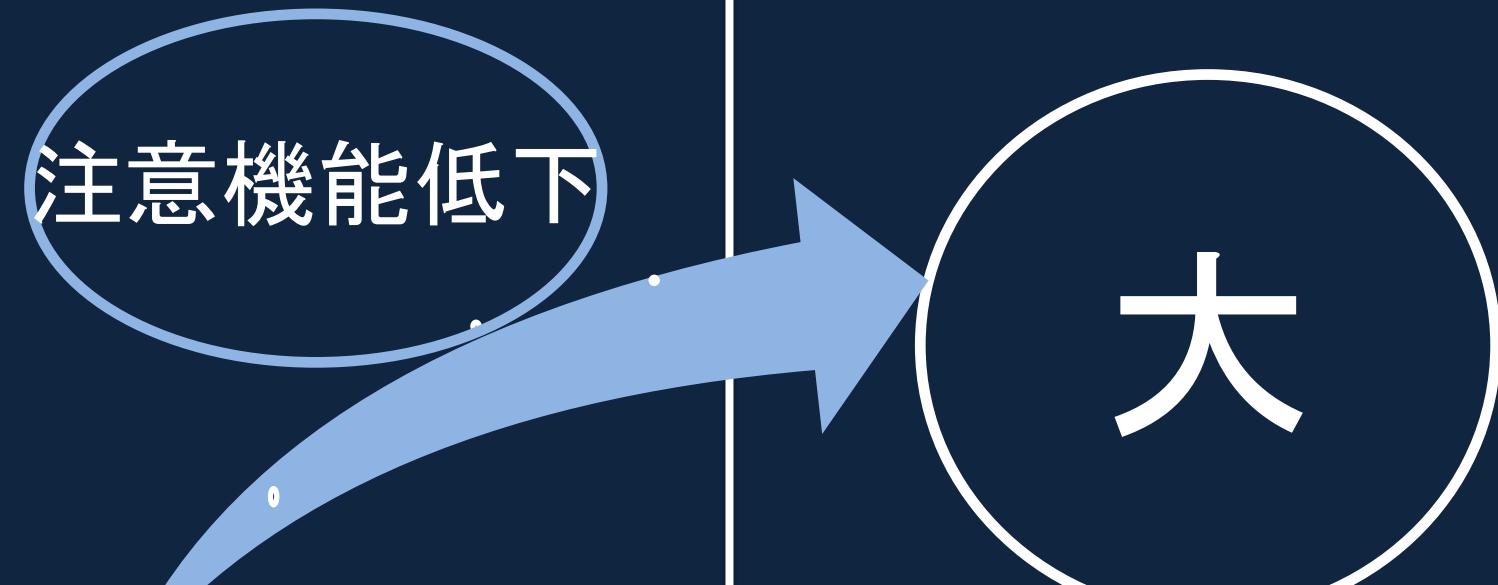
家族：  
「また家事をしてほしい」

本人：  
「家の事をやりたい」

目標：家事動作の再開

# 家事再開に向けた問題点

～家事の遂行～



小

移動の転倒  
リスク

# 二重課題の介入

内容

## 姿勢課題

歩行  
方向転換  
段差昇降  
またぎ動作



## 認知課題

暗算  
目印を辿る  
お盆上のコップ運び  
すれ違う人の勘定

工夫

能力に合わせ2つの課題の難易度を調節

# 家事動作の介入

## 家事動作を練習する

内容

洗濯物をしまう  
部屋の掃除,整頓整頓  
食器、カップを洗い場に運ぶ

工夫

危険な動作の評価  
最低限の指示:道具,手順,方法は本人が考える  
出来栄えや作業の効率を要求

# 最終評価

バランス能力

BBS:50/56点

FRT:30.5cm

高次脳機能

MMSE: 23点

TMT-A: 58秒

TMT-B: 260秒

家事動作

掃除  
洗濯物  
食器運び

自立

# 最終評価

## 歩行評価

### TUG

時間: 12.7秒

歩数: 19歩

### 10m歩行

時間: 11.2秒

歩数: 22歩

暗算課題あり

### D-TUG

時間: 15.1秒 (+2.4秒)

歩数: 21歩 (+2歩)

### D-10m歩行

時間: 12.5秒 (+1.3秒)

歩数: 24歩 (+2歩)

# 考察①

## 二重課題の改善

注意容量の増加

- 課題に対してより多くの注意を払える

注意分配の改善

- 認知課題よりも姿勢保持を優先して行える

動作技能の向上

- 課題に要する注意量が少なくなった

# 考察②

## 家事動作の改善

家事達成のために必要な事を  
考えながら姿勢を保持できる

「部屋をきれいにするには…」  
「食器を安全に運ぶには…」  
「洗濯物をかたすには…」

### 移動・家事動作

- ・目標を立てる
- ・方法を選択
- ・効率的な実行

注意機能

# まとめ・反省

歩行  
バランス能力

+注意機能

家事動作

+環境変化

自宅での家事再開

反省点

環境の変化により退院後  
部分的に家族の介助

入院時の外出訓練  
自宅での設定が不足